SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

続 富士宮の気象

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 誠 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025874

静岡地学　第13号（1968）

続　富士宮の気象

山　崎　　誠

1.　風

富士宮は市の中央部より北々東に富士山があり，西側には北から毛無山（1945 m）・天子ヶ丘（1316 m）に続いて 300 m前後の羽鮒丘陵がある。南には安居山から貫戸・明星山となだらかな丘陵が続き，南東方面だけが駿河湾から続く平野で開けている。したがって北寄りの風は富士山によってさえぎられ年間を通じてごくわずかなのに，駿河湾方面からの南寄りの風が卓越している。

冬の風：南高東低の冬の気圧配置から吹く北西の季節風により静岡県全般ではな西寄りの風が卓越し，風速も大きいが，富士宮では西寄りの風は他の季節よりやや多い程度で風速はかえって小さく，特に10時にはこの傾向が著しい。これは羽鮒丘陵より西にある山々の影響で北西風も弱められてしまうからであろう。富士宮が吉原・原と比べて霜日数の多い原因の一つがここにある。

西の風がほとんどである富士山頂に比べ富士宮では５～６％とごくわずかである。しかし冬期の特徴は特に卓越した風がなく，最多風向の南寄りの風も各風向共他の季節に比べると少ない。

春の風：冬に引続いて静岡県の大半は西風が卓越するが，富士宮ではＳＥ・ＳＳＥの風が卓越し合わせて全回数のほぼ５割を占める。風力では富士山頂をはじめ県下全般的に冬より弱くなっているが，富士宮では冬より強くなっている。なおこの季節には突風めいた強風が時々見舞う。

夏の風：夏は小笠原気団から高温多湿な季節風が日本に吹くが，県下では南から西の風が吹き渡る。富士宮では地形の影響を受けＳＥ・ＳＳＥの風が合わせて６割になり，ＥＳＥ～Ｓまでだと８割となる。夏の風はほとんどがＥＳＥ～Ｓの風で占められる。

また最多風向がいずれもＳＥ風なのは夏の風の特徴である海陸風が加わるからであろう。

秋の風：静岡県は全般に北から東の風が吹くようになるが，富士宮では依然としてＳＥ・ＳＳＥの風が卓越し台風などの影響を除けば風力は冬に次いでおだやかである。また台風も南東方向からの風による影響は大きいが，他の方向の風は周囲の山々によって弱められるので被害は少ない。

10月になるとそれまでほとんどなかった北西方向の風が吹きはじめ，最多風向のＳＥ風も減り冬への移行のようすがうかがわれる。

表１．　各月の最多風向と同風向の頻度（％）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
10時最多風向	ＳＥ	S	SSE	ＳＥ	SSE	ＳＥ	ＳＥ	ＳＥ	SSE	ＳＥ	S	ＳＥ	ＳＥ
同　頻　度	10.7	12.8	19.4	28.3	27.5	28.7	31.5	30.6	24.8	16.9	13.1	11.9	20.5
15時最多風向	SSE	SSE	SSE	ＳＥ	ＳＥ	ＳＥ	ＳＥ	ＳＥ	ＳＥ	SSE	SSE	ＳＥ	ＳＥ
同　頻　度	22.8	29.3	28.8	29.8	33.1	32.9	41.9	34.8	28.2	29.7	26.7	23.0	28.1

表 2.　　各月の平均風速（m／秒）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
10　　時	1.5	1.8	2.7	3.1	3.3	3.1	3.1	3.1	2.8	1.8	1.5	1.5	2.4
15　　時	3.3	3.7	4.7	4.4	4.1	3.9	4.0	4.3	3.8	2.9	3.7	3.0	3.8

年間を通じて南から東寄りの風が多いのは多分に地形の影響を受けるためであるが，猪の頭・白糸（原）から富士宮・富士へと吹き抜けるルートも北西風として10月から３月にかけてみられる。高温多湿な夏のＳＳＥ風が毛無山塊にあたり上昇するため富士宮北部地域に霧が発生し，しばしば一日中視界数mとなることがある。

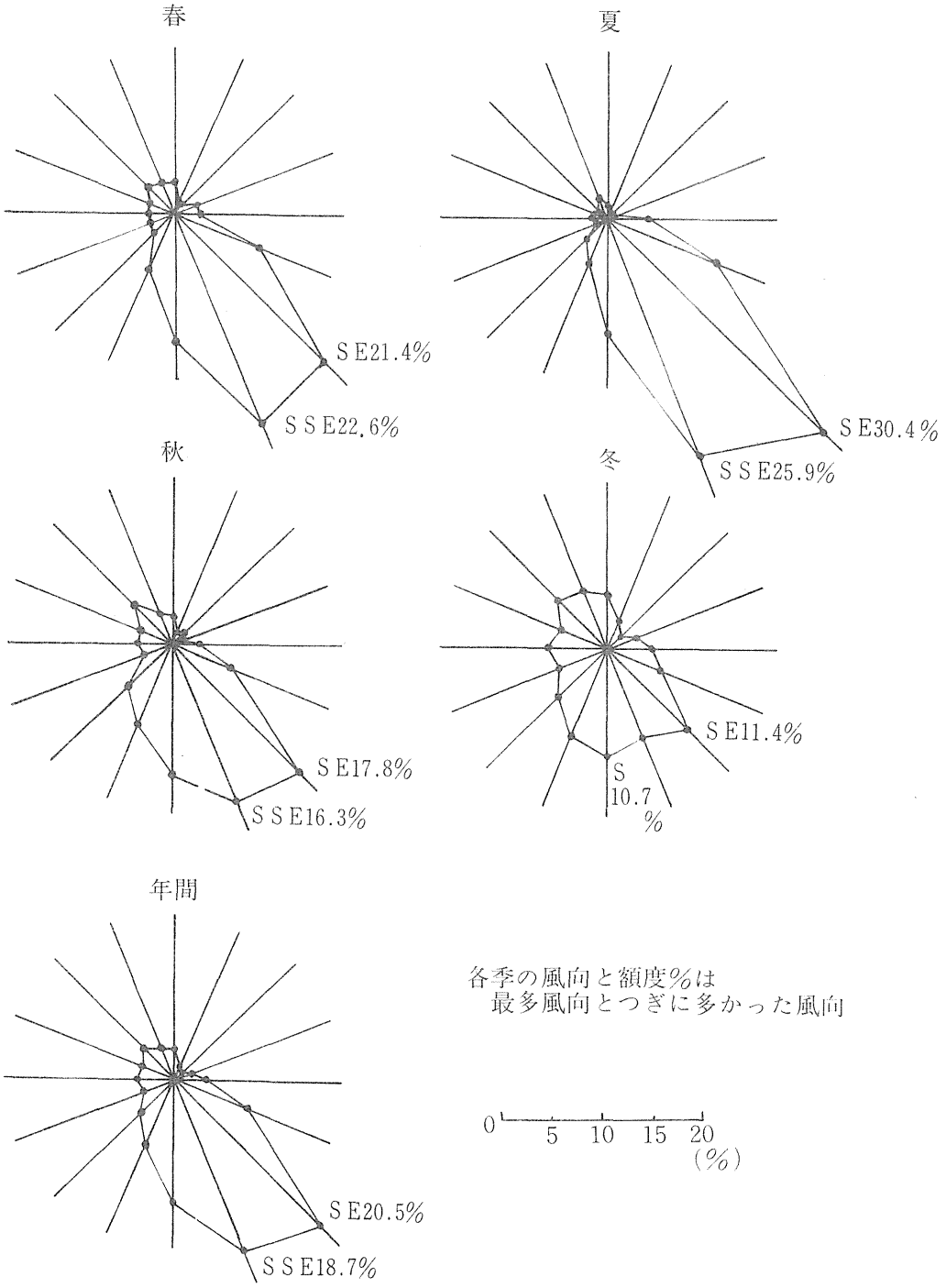

図 1.　10時の風向図

2. 湿　　度

風向では特異性を示す富士宮も湿度では県下全般の傾向と同じように太平洋沿岸の性質を現わし，極小がシベリヤ大陸からくる寒冷で乾燥した風のため冬期の２月，小笠原気団から吹き込む高温多湿な南東風のため７月に極大が起こっている。

3. 富士山顕明度

1961年の１年間，毎日午前10時に富士宮市から富士山の顕明度を０～５の６階級に区分して観測した結果，静岡市から観測した顕明度とほぼ同様に，Ⅰ）南寄りの風，Ⅱ）湿度などと負の相関を示している。

表 3.　　富士山顕明度と気象要素との比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均顕明度	4.2	4.4	3.6	3.4	2.9	2.6	3.0	3.0	3.0	3.7	4.8	4.7
ＳＥ～Ｓの風の頻度（%）	29.5	36.6	45.0	60.3	65.6	62.5	71.5	68.9	62.0	42.2	38.4	29.6
湿　度（%）	60.6	58.8	61.5	67.4	69.6	76.4	78.7	73.4	74.2	69.3	66.0	62.0

顕明度の区分はつぎのとおり

０：降両または雲・霧のため見えない

１：かすんで見えない

２：かすんでかすかに見える

３：かすんで見える

４：普通に見える

５：はっきり見える

4. 雪

昭和32年から10年間の降雪回数をみると25回あり，平均して年 2.5 回となる。近くの吉原 2.2 にはほぼ近いが，原 7.3 とずいぶん差がある。これは標高差・地形などのためであろう。富士山頂では年間を通じて毎月降雪をみるが山麓の富士宮では１・２・３月の３か月に限られ，年によってひどい差がある。初雪の最も早かったのは昭和32年１月５日，終雪の最も遅かったのは昭和36年３月26日である。また富士宮で積雪をみるのは珍らしくそのほとんどは風花めいた小雪で，41・42年と連続した10 *cm* に近い積雪は例をみないものである。

表 4.　　月ごとの雪日数

	1	2	3	4　～　12
雪　日　数	0.8	0.9	0.8	降雪なし

雪日数とは単に降雪を観測した日数を指しその量の多少は問題にしない。

5. 季　　節

日平均気温の推移により，四季を

春：5℃～20℃，夏：20℃以上，秋：20℃～5℃，冬：5℃以下

のように区別してみると，旬別平均値よりみた富士宮の四季は次のように区分される。

春　2月上旬～6月上旬　約130日間

夏　6月中旬～9月下旬　約110日間

秋　10月上旬～1月上旬　約100日間

冬　1月中旬～1月下旬　約20日間

これによると日本の一般的基準の季節に比べて春・夏・秋の期間が長い。県下全般に通じる海洋性の気候の特徴である。

6. お わ り に

前回と2回で主として富士宮旧市内を中心にしての気候についてまとめてみた。はじめ“気候”にすべきか“気象”にすべきかとずいぶん迷い，気候と題するよりまだ未完成であるという意味で“気候”としたとだいである。したがってこの文は未完成のものであり，やがて再度“富士宮の気候”とし，できれば小都市としての富士宮の気候を論じたいと思っている。

おわりに前回(静岡地学，第10号)の資料の要素の項で空所は上が「気温高極」下が「気温低極」また最多風向の観測期間を 1952～1966，風向を前掲の**表1**のように補充・訂正する。

（富士宮市立第4中学校）